

人々の記憶に残る 特別な存在に…

Interview

造形作家

竹谷 隆之さん

たけや たかゆき



Profile_ 北海道出身・東京都在住

阿佐ヶ谷美術専門学校に進学し、グラフィックデザインを専攻する。高レベルの造形力と独自の解釈で描かれるデザイン力が世界的に評価されており、海外にも熱狂的なファンを持つ。「バンダイ S.I.C シリーズ」などのフィギュア原型を担当。また、特撮作品の美術デザインにも参加している。オリジナル作品集「漁師の角度・完全増補改訂版（講談社）」ほか。

当にありがたいことです。

—どんなイメージで製作されたのですか。

竹谷 宮脇さんのほうから依頼があり、いろいろとお話しているうちに「怖めの路線で行こう」ということになりました。その路線に沿って何パターンか案を描いたのですが、最初に造ったものはあまりにも怖すぎると言われてしまいました。なので、分かりやすいものを造りたいというイメージで製作しました。

—これから「鬼丸丸」がどんな存在になってほしいですか。

竹谷 たくさんの人に好かれる存在になってほしいですね。

それは「鬼丸丸」そのものはもちろんですが、それだけではなく、このモニュメントが建っている場所も含めてという意味です。「もの」だけではなく、その「場所」も一緒に」ということが大切なのだと思います。

「鬼丸丸」とこの場所が、憩いの場として、訪れた人の記憶に残るような存在になってほしいと願っています。

「鬼丸丸」の原画と模型を製作していただいた竹谷隆之さんに、製作にまつわる話を聞きました。

—完成した「鬼丸丸」を見た感想を聞かせてください。

竹谷 ひな形そっくりに造ってもらっていますね。小さかったひな形が、何気ないヘラの跡までそのまま大きくなったようで、少し恥ずかしさも感じますが、本

—こだわりのポイントを教えてください。

竹谷 怖さと分かりやすさのバランスに一番気を使いましたね。「鬼」として、誰にでも分かりやすくすることを心掛けて、怖すぎたり、マニアックになりすぎたりしないように気を付けました。

また製作する過程で、鬼